



神戸ウォーターフロントビジョン

2022年12月発行

編集・発行
神戸市

電話：078-595-6306
FAX：078-595-6284

神戸ウォーターフロント ビジョン

GRAND DESIGN

グランドデザイン

平成23年3月策定

「港都神戸」グランドデザイン

目的 都心とウォーターフロントを機能的にも空間的にも一体化し、多くの人で賑わう、人中心の街とし、神戸の持続的発展を目指す

目標年次 概ね20～30年後（2030～2040年頃）

対象エリア ハーバーランドからHAT神戸までのJR以南のエリア

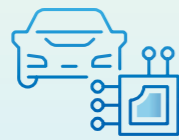
基本的な視点

- ・多くの人が集う
- ・神戸の特質、地域資源を最大限にいかす
- ・新たな都市機能を導入する
- ・環境創造の場づくりを推進する

社会の変化



環境意識の高まり



技術開発



ライフ・ワークスタイルの多様化



DX

KOBE 神戸空港・国際化を含む運用拡大

都市間競争の時代

魅力的で選ばれる都市を目指し、次なる施策の方向性を示す

CONCEPT & AREA

全体コンセプトと対象エリア

緑あふれる新たな『海辺』まちの創出 ～ウォーターフロント都心～

海を感じられる風景を作るとともに、水と緑豊かな上質でラグジュアリーな時を過ごせる空間をつくる。新しい発想・価値が生まれる「交流拠点」となり、国内外からの来訪者を魅了する「まち」として成長していく。

取り組みテーマ「マテリアリティ」

<p>01</p> <p>交流人口をふやし滞在空間をつくる</p>	<p>02</p> <p>開放感、高揚感を感じられる空間をつくる</p>	<p>03</p> <p>居心地がよく、歩きたくなる空間をつくる</p>
<p>04</p> <p>質の高い「みなとまち神戸」の風景をつくる</p>	<p>05</p> <p>サステナブルな環境をつくる</p>	<p>06</p> <p>スマートシティを実現し付加価値を生み出す</p>





新港突堤西地区 水辺空間

CONCEPT

エリア・コンセプト

- Urban resort
都心のリゾート
- Maritime traffic node
海の玄関口
- Clean energy
クリーンエネルギー

リゾート気分を あじわえる空間へ

THEME エリア・テーマ



マリーナを取り囲み、水と緑の空間をレイアウト。
国内外から人が集まり、海を身近に感じつつ、
楽しみながら過ごせる空間を目指します。
また、ブルーカーボン生態系を取り入れるなど、
カーボンニュートラルに向けた取組みを進めます。
新しい技術も受入れ、神戸空港や瀬戸内海などにつながる
“海の玄関口”となります。

CONTENT 導入機能のイメージ

01.



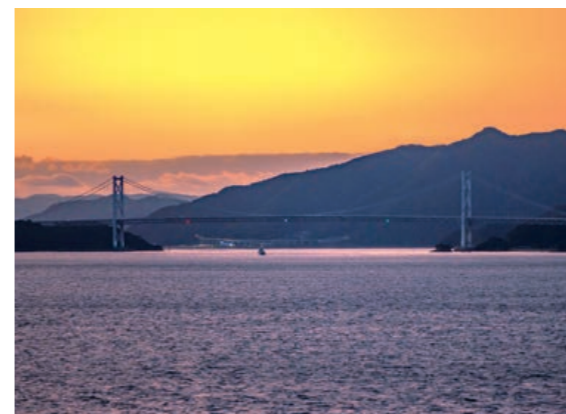
多くの国でマリーナは、プレジャーボートの保管場所にとどまらず、地域の憩いの場や観光拠点としての役割を果たしています。水面の利用だけでなく、陸上と一体で開発することで、ウォーターフロントの付加価値を高め、都市の価値をも高めています。

02.

カフェやレストラン、ショップ、ホテルなどがならぶ海沿いのプロムナードは、観光客だけではなく、多くの地元の人々もくつろぐエリアとなっています。
開放的な雰囲気のプロムナードは、散歩やランニングなどでも多く利用されています。



03.



穏やかな海と大小約700の風光明媚な島々が浮かぶ、瀬戸内海の多島美を楽しめるクルーズが注目されています。「空飛ぶクルマ」が、海外では有人飛行に成功するなど、パーソナルモビリティの研究・開発、普及が進んでいます。



※実施計画や事業を決定・拘束するものでなく、取り組みの方向性を示すものです。



新港突堤西地区 都市空間

CONCEPT

エリア・コンセプト

- Luxury
ラグジュアリー
- Inbound tourism
インバウンド
- Creative
クリエイティブ

賑わい × 非日常 × 高揚感を 感じられる空間へ

THEME エリア・テーマ



インバウンドなども対象に、アクティビティやリゾートホテルなど、ここでしか味わえない雰囲気や盛り上がりを楽しめる空間を目指します。
街全体では、最先端のテクノロジーも活用しながら様々な用途の空間が混ざり合う活力あふれるまちづくりを進めます。



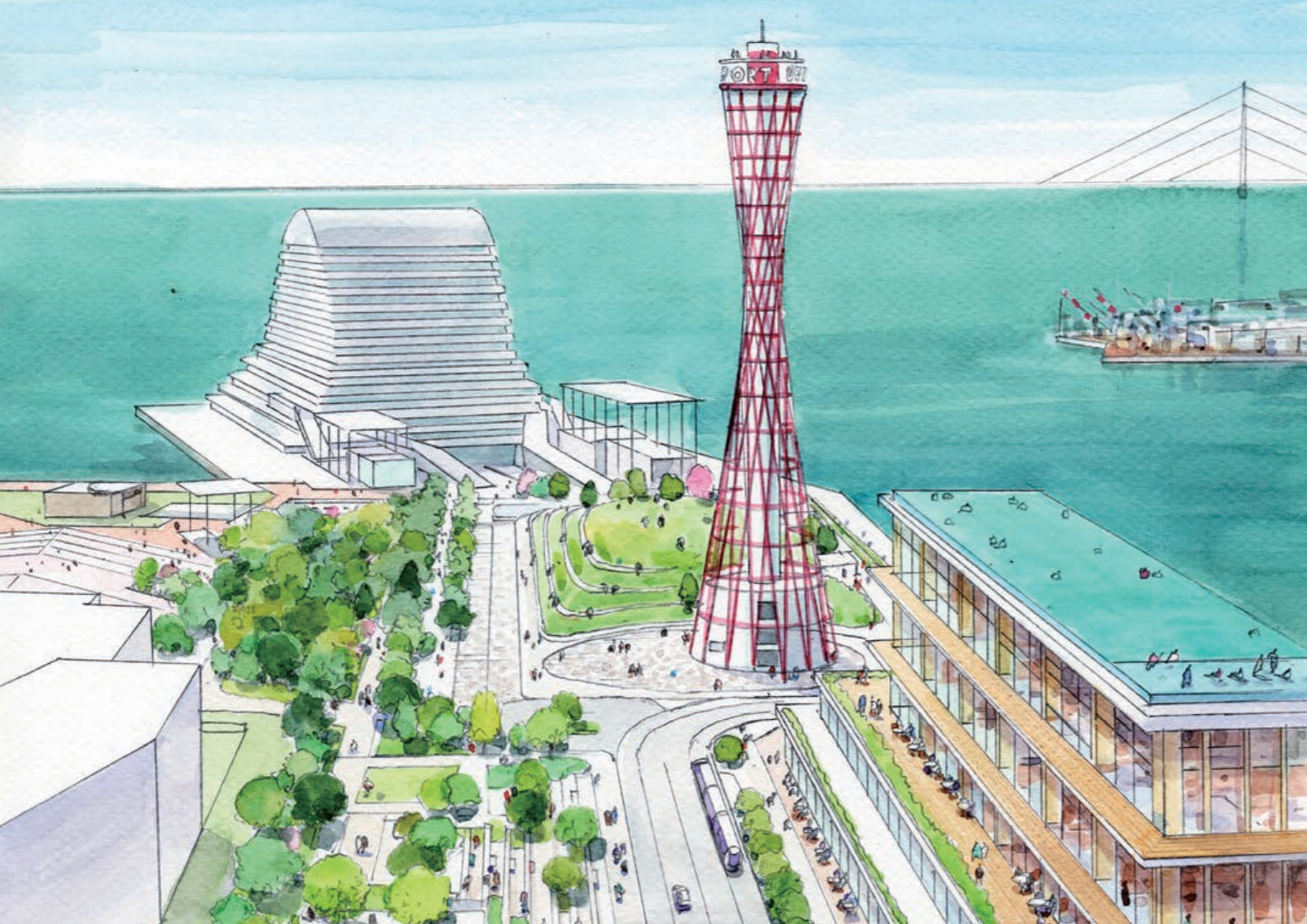
01.
夜も楽しめる飲食店や文化施設、娯楽施設、イベントなど、ナイトタイムエコノミーが充実すると、経済的な目的だけでなく、国際都市としての競争力も高まります。
日本でも、外国人旅行者の満足度を上げ、滞在時間を増やして旅行消費を拡大する取り組みが広がっています。

02.
上質な観光サービスを求める旅行者に長く滞在してもらうには、それに見合うサービスと設備のある宿泊施設が必要です。
施設のタイプも様々で、非日常感を楽しめるライフスタイルホテルや、リゾート型の温泉ホテルなど、滞在那のものが目的となる施設が増えています。



03.
オフィスや商業、ホテル、展示場、居住空間など、いろいろな用途の施設ができることにより、エリアが「まち」として機能します。
そして、様々な人々が利用することで、まちに新陳代謝をおこす「ミクストユース」といわれるまちづくりが広がっています。
ICTを活用して、より便利に、そして地域課題の解決を図る「スマートシティ」の取り組みも広がっています。

※実施計画や事業を決定・拘束するものでなく、取り組みの方向性を示すものです。



01. 緑豊かなオープンスペースは、地域の憩いの場として使われるだけでなく、国内外から多くの人を集め、今やまちづくりになくてはならないものとなっています。地域の農産品や加工品を取り扱うマーケットなど様々なイベントが行われ、賑わいやコミュニティが生まれる場所となっています。



02. 来園者に長く公園で過ごしてもらうため、キオスク（便利な小さな売店）を設け、カフェやレストランなどで飲食ができるようにしています。産直品や雑貨のショップ、子供たちが自由にいきいきと遊べる広場など、利用者を満足させる「利用したくなる」施設が増えています。

中突堤周辺地区

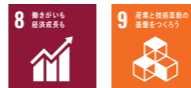
CONCEPT

エリア・コンセプト

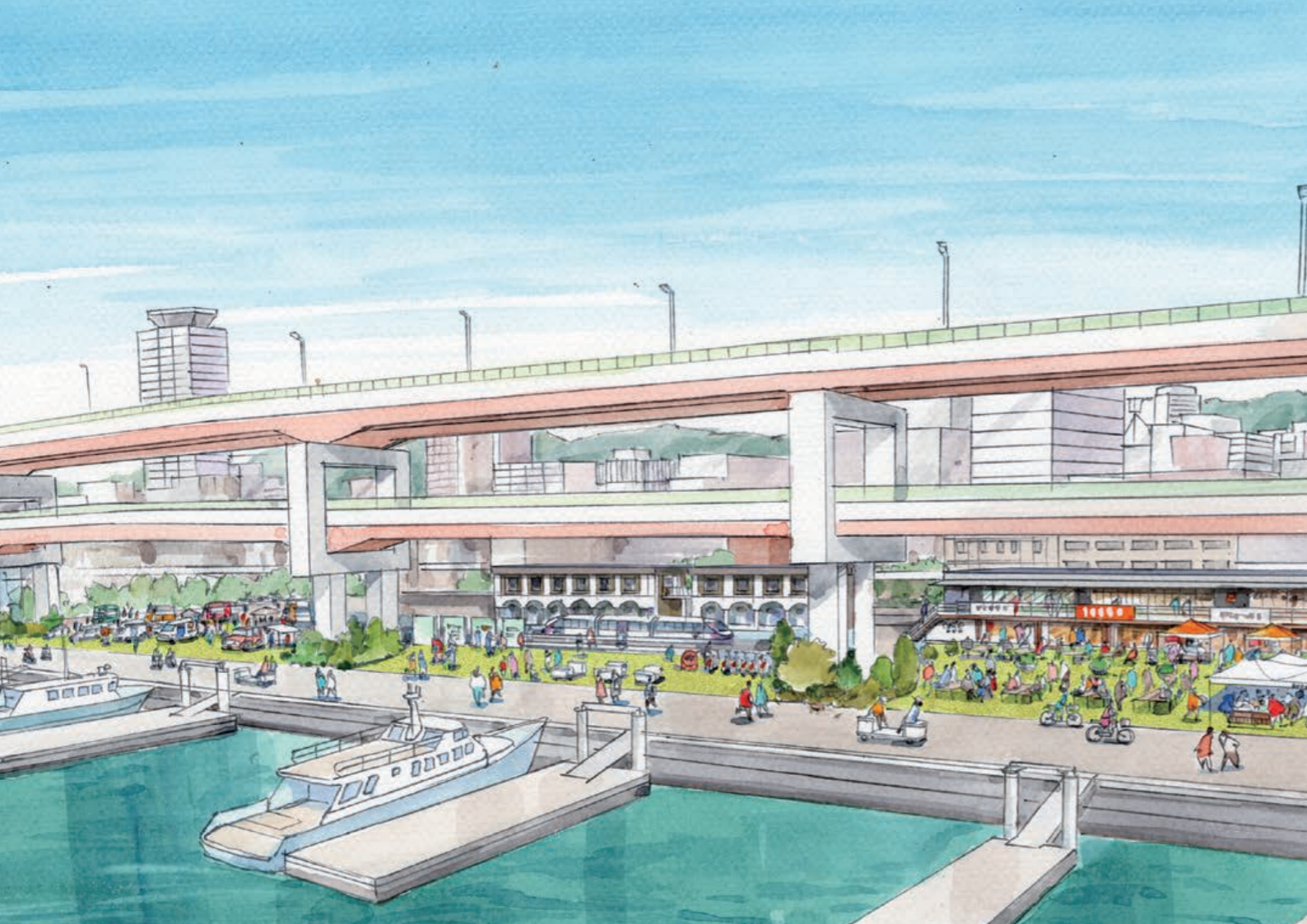
- Well-being
憩いの空間
- Communities
コミュニティ
- Partnership
パートナーシップ

みなとまち神戸を感じる 開放感な空間へ

THEME エリア・テーマ



みなとまち神戸を象徴する地区です。
観光や商業機能をプラスしながら、緑あふれる空間へとさらに進化させ、様々な人が集う空間を目指します。
様々な主体が関わりながら、
海と空の開放感を活かしたイベントなどを行って賑わいを生み出し、エリアの価値を向上させます。



京橋地区

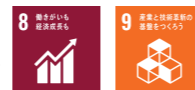
CONCEPT

エリア・コンセプト

- Traffic node
交通結節点
- Walkable
ウォーカブル
- Communities
コミュニティ

様々な交通モードが 繋がる空間へ

THEME エリア・テーマ



都心から近く、ウォーターフロントのエントランスとなります。
モビリティやLRTなど様々な交通モードと遊歩道がつながり、
また情報発信の拠点になる空間を目指します。
ウォーターフロント全体で、ウォーカブルな空間づくりを
進めます。

CONTENT 導入機能のイメージ

01.



世界の多くの都市で、まちなかを、車から人
中心の空間へと切り替え、憩い・楽しめる場
とする取り組みが進められています。
安心して歩ける空間や緑、テラスやパブリッ
クスペースの活用など、居心地の良い空間が
まちの価値を作っています。

02.

新たな交通手段としてパーソナル・モビリティが注
目されています。交通弱者の移動をサポートする社
会的な役割や、“ちょっとした移動”にもぴったりで、
観光にもとても便利だといわれています。
LRTなどと一緒に用途に合わせて使い分けると、
その可能性がさらに広がります。



03.



訪日外国人観光客が増え、エリアの見どころ
や開催中のイベント、交通機関、宿泊施設、
お土産情報など、旅行を楽しむための情報
案内の重要性が見直されています。
それぞれのニーズに合った情報や、地域のよ
り奥深い情報を提供することで、リピーター・
ファンを増やしています。

※実施計画や事業を決定・拘束するものでなく、取り組みの方向性を示すものです。



夜間景観

CONCEPT

エリア・コンセプト

- Night view
夜景
- Nighttime economy
ナイトタイムエコノミー
- Clean energy
クリーンエネルギー

神戸の夜を楽しみ、 夜景を愛でる空間へ

THEME

エリア・テーマ



美しい夜景は、欠かすことのできない神戸の魅力です。さらに磨きをかけ、夜も“美しいみなとまち神戸”となり、ナイトタイムエコノミーを広げて、泊まりたい観光地となることを目指します。ウォーターフロント全体で、再生可能エネルギーを積極的に活用し、SDGsの実現に取り組みます。

CONTENT 導入機能のイメージ

01.



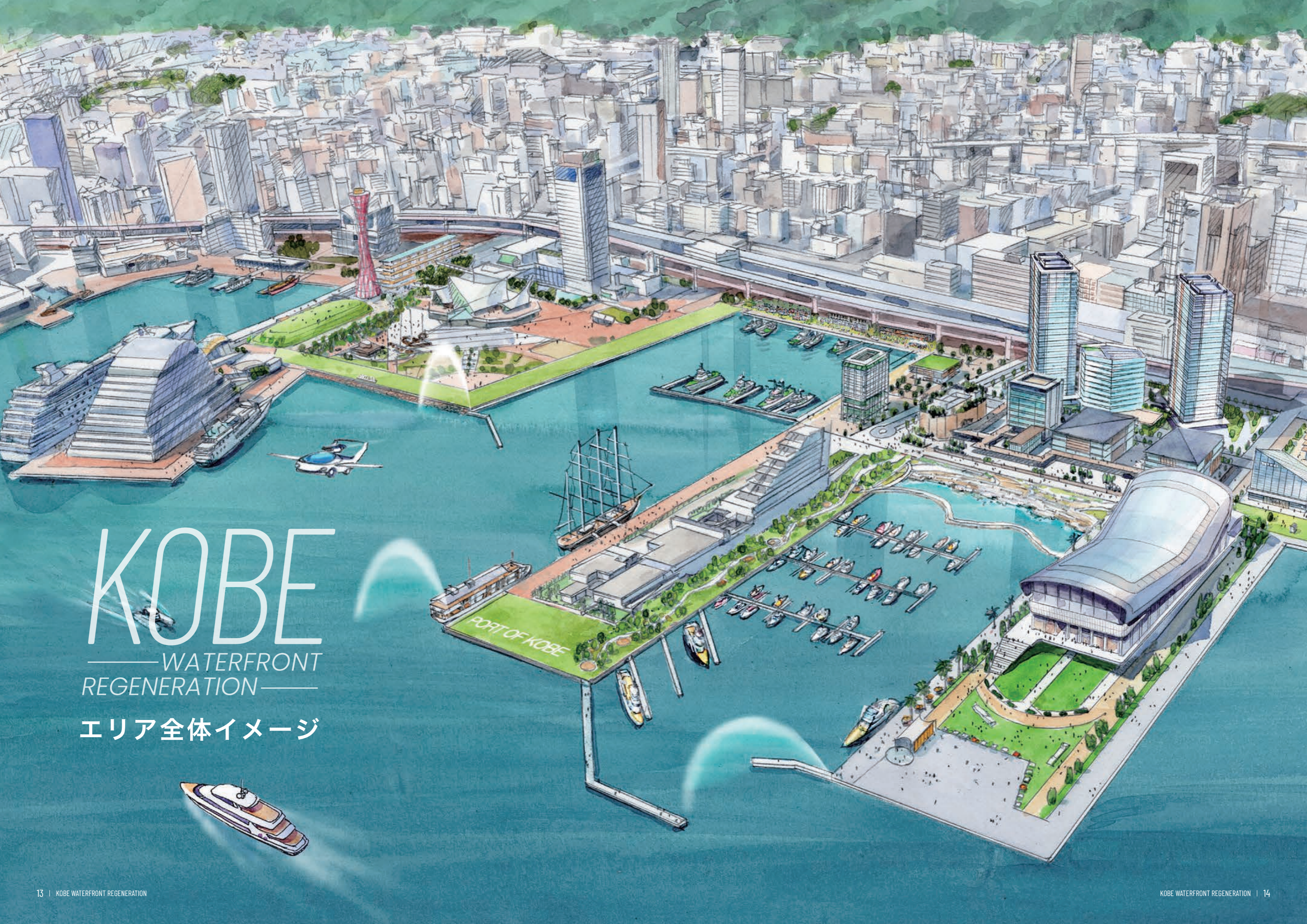
都市空間を美しく彩る景観照明は、観光や街づくりに欠かせません。夜景が美しい街は、それを観光資源と意識しながらその街らしく創り上げ、散策しながら夜景を楽しめるスポットのあるまちづくりを行っています。サステナブルな社会の実現に向け、再生可能エネルギーの活用も始まっています。

02.

LED照明やプロジェクションマッピング等の照明技術の進歩や、ナイトタイムエコノミーの広がり、インバウンド拡大などを背景に、光を使用した大規模な夜景の演出イベントが増えています。その時間だけのライティング演出や花火が、夜の観光コンテンツとなっています。



※実施計画や事業を決定・拘束するものでなく、取り組みの方向性を示すものです。



KOBE

— WATERFRONT
REGENERATION —

エリア全体イメージ

参考 ウォーターフロントの変遷

1868年 ● 神戸開港



京橋付近
1879年



1923年 ●



メリケン波止場
1923年



1940年 ●



中突堤周辺
1934年



新港西
1956年



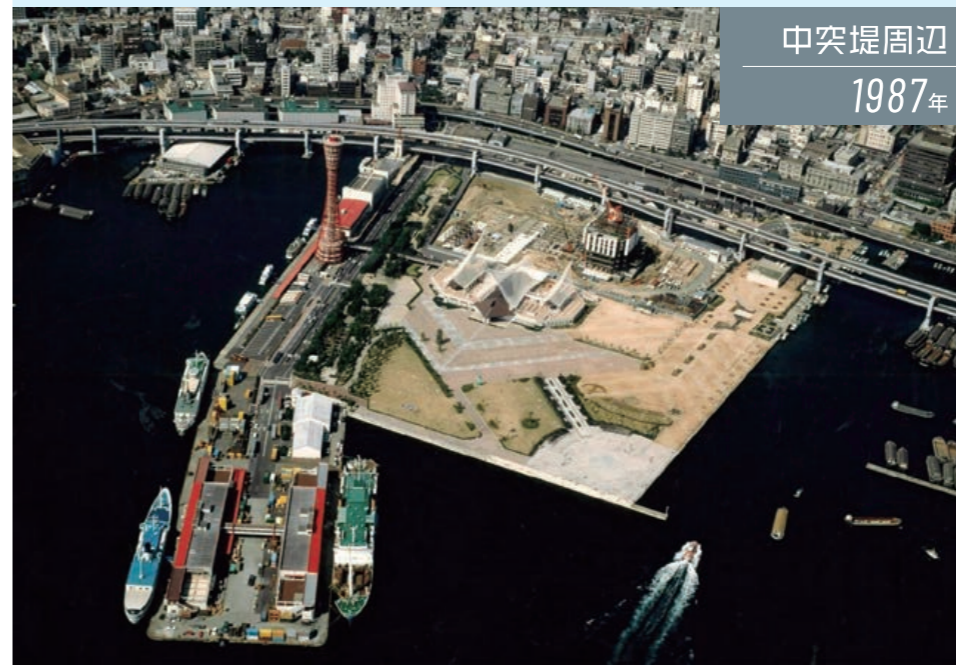
ポートタワー
1963年



新港西
1981年



中突堤周辺
1987年



- 1966年 ● ポートアイランド着工 (1981年竣工)
- 1967年 ● コンテナ船初入港
- 1972年 ● 六甲アイランド着工 (1992年竣工)
- 1981年 ● 「ポートピア'81」

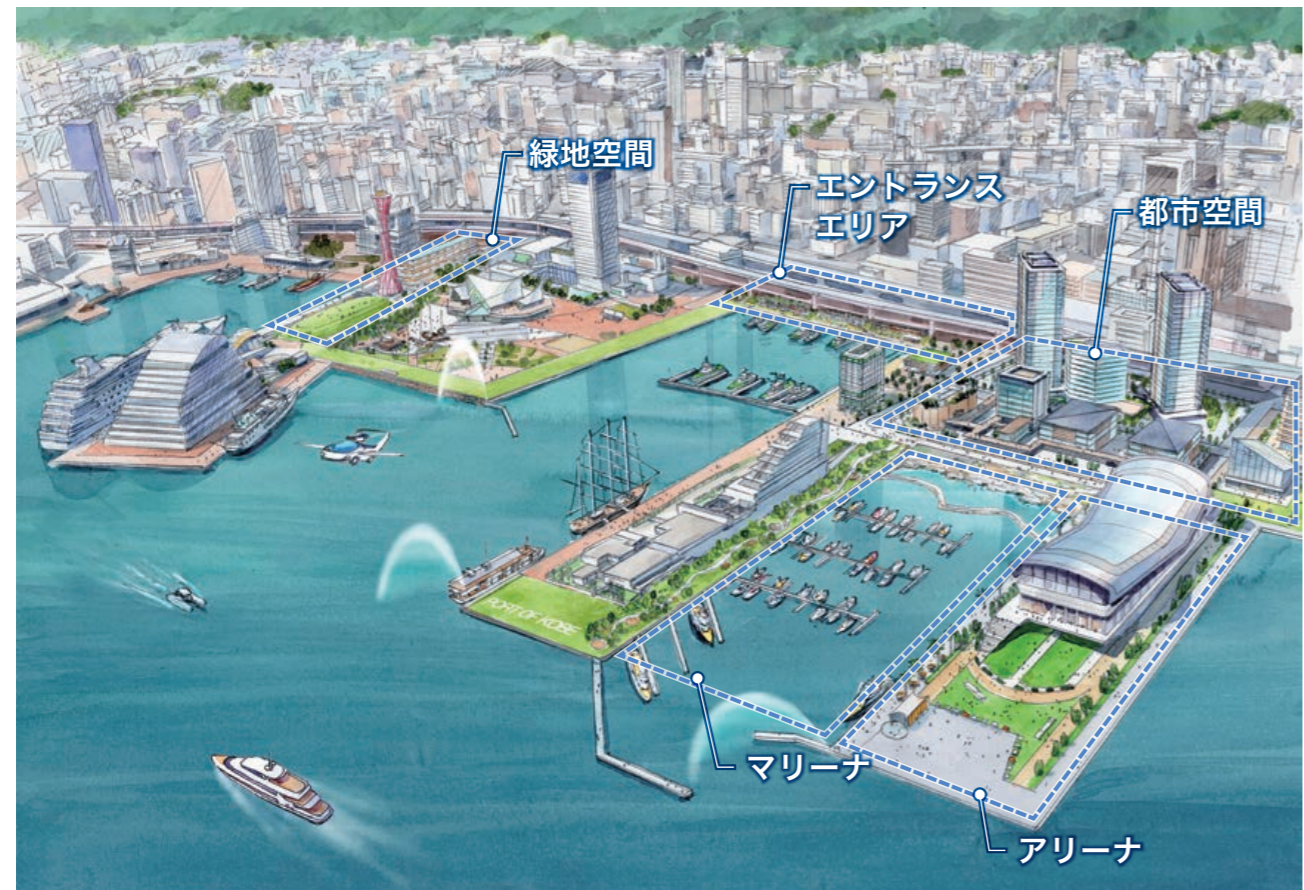
1984年 ●



- 1992年 ● 神戸ハーバーランドオープン
- 1995年 ● 阪神・淡路大震災
- 1998年 ● 中突堤中央ターミナル供用
- 2006年 ● 神戸空港開港



将来構想図 CONCEPT DIAGRAM — 2030年代前半



神戸港中期計画 — 2022.12

中期計画の方向性

「港湾・産業」分野

グローバルサプライチェーンの中で、世界から選ばれ続ける総合物流港

「にぎわい・都市」分野

非日常の空間を提供し、国内外からの来訪者を魅了するみなと

社会情勢の変化	方向性
人口の減少・流出 都市間競争の激化	<ul style="list-style-type: none"> 都市の魅力を高め交流人口を誘発 海路・空路を活かしたまちづくり・誘客
大阪・関西万博を はじめとした ベイエリアの活性化	

主要施策

「にぎわい・都市」分野

都心・ウォーターフロント



- 新港突堤西地区から中突堤周辺地区を中心とする、民間活力を導入した再開発の推進
- 阪神高速3号神戸線の大規模更新事業に合わせた京橋周辺の再開発
- 民間活力を導入した水域活用や親水空間の創出(新港第1・第2突堤間)
- 官民が連携したエリアマネジメントによる持続性のある都心・ウォーターフロントの形成、国内外への魅力発信による交流人口の誘発
- 次世代モビリティや、新たな公共交通(LRTやBRT等)を導入した回遊性の向上
- ICT等の新技術を活用したスマートシティの実現

海路・空路を活かしたまちづくり・誘客



- 大阪湾ベイエリア活性化にあわせた新たな海上交通の検討
- 淡路島観光などと連携した海上交通の導入検討
- 神戸空港と海上交通を活用した新たな賑わいづくり
- 市街地から神戸空港へ至る交通ネットワークの強化

クルーズ



- プレミアム・ラグジュアリー船による瀬戸内クルーズなど、神戸発着クルーズの誘致
- Fly&Cruiseによる広域からの旅客誘致